



統合準備会
特別号

森町立泉陽中学校だより

令和元年7月23日発行

教育目標「志をもち鍛える たくましい生徒」

スローガン「靴を揃え 背筋を伸ばし 返事はハイ」

令和元年6月27日(木)森中学校ランチルームにおいて第2回泉陽中学校・森中学校統合準備会が開催されました。また同日、6月森町議会定例会において「森町立学校設置条例の一部を改正する条例について」が可決され、泉陽中学校と森中学校の統合が決まったとの報告がありました。

統合準備会の概要は次の通りです。

PTA分野

松田委員長(森中学校教頭)から、今後の予定と検討内容について報告がありました。

＜今後の予定＞

- ・8、9月に組織再編について検討を実施するとともに、その後、次年度役員の選出を始めていく。

＜今後の検討内容＞

- ・令和2年度以降のPTA組織について
- ・役員選出方法について
- ・PTA規約の変更について
- ・PTA活動について

事務分野

小金澤委員長(泉陽中学校教頭)から、これまでの取組内容と今後の検討内容について報告がありました。

＜これまでの取組内容＞

- ・図書室の対応についての検討
- ・町内学校事務職員による片付け作業の実施

＜今後の検討内容＞

- ・備品の確認、選定についての検討
- ・備品の移動についての検討



式典分野

宮本委員長(泉陽中学校教諭)から、「閉校式に向けて生徒による合唱曲づくりに取り組んでおり、泉祭で披露できるよう準備している。現在生徒による作詞が完了し、作曲に取り組んでいる」という報告がありました。

教育分野

鈴木委員長(森中学校長)から、泉陽中と森中が一緒に新しい歴史を作っていくための心構えや学校教育目標「共に学び 共に生きる」への思いについての説明の後、学校経営構想、学校経営方針、教育課程に関わること等について協議を行いました。

＜協議＞

- (1) 教育目標・経営目標
 - ・森中学校経営構想(グランドデザイン)について
 - ・学校経営方針について
- (2) 教育課程編成
 - ・泉陽中、森中両校で11月以降に作成する。
- (3) 統合に向けて準備すること
 - ・教育課程に関わること(学習)
 - H30副教材について調整を実施。
 - R1定期テストを同日実施し、1・2年は同じ問題で実施予定。
 - (教育課程編成)
 - R1.11～R2.2に向けて実施する。
 - ・生徒の活動に関わること(生徒会本部役員)
 - 初年度は会長2人体制で運営する。
 - (部活動)
 - 基本は現在在籍している部活動で活動する。
 - 部活によっては可能な範囲で調整を行う。
 - (修学旅行)
 - 事前学習を合同で実施する。

＜森中学校グランドデザイン＞



【裏面に続く】

- (卒業アルバム)
両校の写真を利用することが可能。
- (交流)
R1.10 ときわ祭で交流合唱を実施予定。
R2.2 1, 2年生合同授業の実施を予定している。
- ・学校運営に関わること
(校則)
すりあわせを実施する。
- (制服等)
制服は両校同じなので問題ない。
体操服・通学鞆は統合後どちらのものを使っても良いこととする。
※ 数年先には新たな体操服への変更を検討する。
※ 泉陽中の生徒全員に体操服等を支給するよう町に依頼する。
(防災対応)
※ 全ての生徒の安全確保を前提に、現在泉陽中での防災時の基準とする事が適切であると考える。

通学分野

寺田委員長（泉陽中学校長）から警報時の対応や通学区の状況についての説明の後、企画財政課から、通学における既存バスの利便性を高めていく取組についての説明がありました。

その後、三倉・天方地区から森中学校周辺の図面で通学路における危険箇所の状況を確認し、三倉・天方地区の生徒は全員が自転車通学の対象となることや「天方小学校区、三倉小学校区及び泉陽中学校区児童生徒通学費補助金交付要綱」の内容を確認しました。

<協議>

- (1) バス路線の現状について
 - ・町の補助状況や乗降者数の人数の確認。
- (2) スクールバスの公共交通に与える影響の検証について
 - ・秋葉線・吉川線沿線、大河内線沿線それぞれの状況。
- (3) 既存の交通体系を活用した通学方法の検討について
 - ・通学に利用できるバス停と時刻の確認。
- (4) 各路線の改善策について
 - ・秋葉線 慶長橋バス停の移動
 - ・大河内線 森中学校付近のバス停への直行（児童生徒に限る）、増便の検討
 - ・吉川線慶長橋バス停の移動、増便の検討

(5) 通学費補助金交付要綱について

[現 状]

- ・補助対象：通学距離が4 km以上の児童
通学距離が6 km以上の生徒
- ・補助金の算出：（バ ス）対象となる年間定期額もしくは回数券の65/100の額
（自転車）6 kmを超える通学距離1 kmにつき15円×年間授業日数

意見・要望等

(教育分野)

- Q：防災計画の検討を早く行ってほしい。
A：泉陽中と森中の防災計画を次回、確認していただくよう準備する。
Q：学校間の交流について、今以上に取り組めないか。
A：今年度の教育課程の中では2回交流授業を行う予定である。新3年生は修学旅行学習会を両校一緒に行う予定である。

(通学分野)

- Q：三倉地区では自宅からバス停までの距離が長く、各家庭での送迎がないと通学ができずに負担となっている地区があるので、そのフォローについて検討をしてほしい。
A：今回の統合準備会では、統合により生じる新たな負担に対する検討をしている。通学時にバス停まで送迎をしている状況は地域の懸案事項として引き続き検討していく。
Q：スクールバスを町が走らせることができない理由はわかったが、例えばスクールバスを秋葉線のバス業者に委託すれば、地域の児童生徒が乗らないことによる国県補助の輸送量基準への影響は少ないのではないかと。
A：現状が基準の下限に近い数字であり、現在の公共交通の状況から判断するとスクールバスの検討は難しい。

<三倉・天方から森地区の通学地図>

